

来年こそ我が社に新卒を一人以上迎えよう( )  
学生時代の過ごし方

開倫塾  
塾長 林 明夫

1. はじめに

受け入れる企業の側では、不況のどん底ではあるが来年こそ一社一名は新卒を迎えようと決意をし、採用計画を立て採用担当者を決め、更に研修計画を立て研修担当者を決めあらゆる準備をして自社の再生の活力にと、新卒者を迎えるべきであるところの「みにむ」をお借りして3ヵ月間主張をさせて頂いた。今回は本シリーズの最後として、では来年もしくは再来年採用されることを希望する卒業を半年または一年半後にひかえた学生の皆さんは、どのような心構えで学生時代を過ごしてもらいたいかを述べさせて頂きたい。

2. やりたいことを気のすむまでやること

従業員規模が1万名を超す大企業も、1~2名の小さな企業も、これから何年間かは一寸先は闇であること同じである。違うのは、倒れるときに、大きな音を立てて崩れ去るのか、音もなしにヘナヘナと消え去るかだけである。

労働時間の長さなど全く気にせず時給10円でもお金が稼げればいくらでも働きたいと考え、早朝から夜遅くまで働き、家族や自分自身のとりあえずの食べるもの、住むところ、身に付けるもの等物質的豊かさを求める国々との競争を強いられていることも大も中も小も日本の会社であれば同じだ。

もし時給10円の国々の人々がつくったり提供したりするものとほぼ同じものをつくったり提供したりしている日本の会社であれば、その会社ではその平均の時給は、質や生産性において、時給10円の国と比べ賃金に見合う倍数だけの内容であるか否かが問われていることも日本の大企業も小さな会社も同じだ。

ひとたび現在の日本で会社に入ればこのような厳しい現実が待っていることは、大中小を問わず同じだ。そうであるならば、どのような態度で学生時代を過ごさねばならないか、明らかになる。以下、思いつくままに私の考えを述べさせて頂く。

当たり前のことだが、「英語は不自由なく使えなくてはならない。」具体的に言えば、高校卒であれば、実用英語検定で3級を、短大卒であれば準2級を、大学卒であれば2級を持つぐらいの実力でなければハナシにも何にもならない。もし、そのくらいの英語力がないのなら、力がつくまで留年するか、専門学校に行って勉強するかして就職はしない方がいい。なぜ英語の力が必要かなどと疑問に思う人は、勉強不足の極めつけで、就職試験には行くだけ時間の無駄である。

\* コンピューターやワープロの操作も同じで、「一太郎」がブラインド・タッチで使いこなせることが絶対条件である。できなければできるようになるまで就職活動はしない方がよい。なぜそんな能力が必要かと疑問に思う人も、世の中についての勉強不足で今日の日本の会社への就職は困難

かと思う。

- \* 英語の力がある程度あって、コンピューターが操作できてはじめて就職の最低条件が整うと思えばあとになって就職できない自分自身にハラも立たないだろう。どのような勉強をそれまでしてきても英語とコンピューターは必ず一定レベルまでマスターしておくこと。

「やりたいことを気のすむまでやること」。学生の本分に反しないなら、どんなことでもよい。徹底してやり抜くこと。海外旅行がしたければ世界一周をし尽くせばよい。波乗りがしたければ一年 365 日休むことなくすればよい。実験がしたければ朝の 6 時から夜の 12 時までやればよい。一つのことを気のすむまでやり通すことが大事だ。自分でやりたいと決めたのだから、途中でヘコタレてはならない。ダラダラしてはならない。やりたいことを脇目もふらず徹底的にやり抜くこと。

- \* これから入るのは世界最高の賃金の日本の企業である。そこで求められるのは「世界最高の賃金に値する仕事」である。中途半端な仕事、やる気のない仕事をする人などは勤まるはずもない。やりたいことが明確にあり、せめて働いている間くらいは全神経を、全体力を、全気力を仕事に打ち込めないと、「世界最高の賃金に値する仕事」は為し遂げることはできない。その意味で、何でもよいから学生時代には打ち込めるものを見つけ、気のすむまでやり抜くことをおすすめる。求められるのは「世界一の賃金に値する高い質の労働」であるから、余程打ち込む訓練をしておかないと業務が遂行できない。

- \* 学生時代にやりたいことをやり尽くせば、その分野においては一定のレベルにまで達することができると思う。社会人になったら学生の時ほどではなくてもいいから、一年にある約 100 日の休日の大半を学生時代にやっていたことの「つづき」に使うことをおすすめる。「世界一の高賃金に値するだけの質の高い仕事」を目指す日々が続くと、ものすごいストレスがたまり、放っておくとノイローゼになるまではいなくても、若いのに疲れがたまりやすくなる。もし休みの日に日頃の業務から全く解放されて、全く別の生き方ができれば、ストレスも飛び去り新しいエネルギーもわいてくるというものだ。職場での人間関係の他に、仕事の他の一生やりたい分野での人間関係もでき、人間としてのものの見方も広まる。ただ、休日に体力や気力を使い果たし、仕事をするべき日に、疲れ果て仕事にならないようなことだけ避けなければならない。

「約束の時間には、5 分前に到着する能力を身に付けること」。一度時間の約束をしたら、徹底的にそれを守ることは学生でも必要である。社会人となったら、更に要求される。「時間 5 分前に到着するのは能力である」と私は信じて疑わない。「到着できないのは能力がないから」だ。遅刻者はいつも決っていて絶えず他の人に迷惑を掛け続ける。「世界一の高賃金の仕事」は遅刻しては為し遂げられない。できれば、どのような場合でも 30 分～1 時間前に到着して、今までのことを振り返ったりその日の準備をすることが望ましい。私の親友に渡辺茂さん(足利市島田町)という大工さんがいるが、大工さんの仕事は「段取り八分」つまり準備がとても大事だと教えて下さった。約束の時間の 1 時間前に約束の場所に行き、今までの経過を示した資料があればそれらに目を通し、心を静かに保ちながら本日の予定のシュミレーションをすることが大事だ。

- \* 開倫塾では、「その日の授業の準備は、授業前日の午前中までに終了させておくこと」を全ての先生の義務事項にしている。事前の周到な準備こそ質の高い仕事を為し遂げるためには必要で、当然「約束の 5 分前到着」も必要不可欠である。

「授業中はおしゃべりを一切しないこと」。この文章を読まれている社会人の方は何と当たり前のことを言っているのかと思われるかもしれないが、現代の高校、短大、大学の教育を妨害する最大の問題は「おしゃべり」であることは、一度でもそれらの学校の先生から本音を聞けば判明する。「学生が授業中おしゃべりをするなんて考えられない」と思う方は試みに、どこの高校や短大や大学でもよいから行って、5～6分教室の後ろにでも座らせてもらおうとよい。腹が立って自分が情けなくなるほど「おしゃべり」が多い。短大や大学の先生などよくノイローゼにならないかと思うほどだ。会社に入って、このおしゃべりを持ち込まれたら会社業務は著しく妨害される。

\* 折角、保護者が高い授業料を支払って教育を受けさせてくれているのであるから、又、納税者が高額な税金で教育の補助をしてくれているのであるから、各学校での一回の授業が果していくらに値するのかを計算した上で、せめて先生方の講義は他人と「おしゃべり」することなしに静かに聴く訓練をすること。

\* 「おしゃべり」が見られる高校、大学、短大の先生方は全力を上げて真正面からこの「おしゃべり問題」と取り組むべきである。「おしゃべり」を許すことは、自らの教育活動の自己否定である、おしゃべりは教育活動に対する「犯罪行為」である。この位の認識を持って、「おしゃべり全廃」に向けて学校長が先頭にたち全学あげての取り組みをすべきである。おしゃべりをする学生が一番悪いが、それを放っておく授業担当者、もし学校中うるさいのであれば学校長にも責任の一本はある。「おしゃべりのない学校」が出来上がれば、やる気のある学生が殺到し、10年後、20年後の学校経営も安心である。「おしゃべりの多い学校」は10年後には学生が集まらず「廃校」にまで追い込まれる。何十億円もかけてどんなによい設備をしてもこの「おしゃべり」対策をしない学校は10年後の学校間競争に破れ去り、「閉鎖」の運命をたどる。そのくらいこの「おしゃべり問題」は深刻である。

開倫塾の場合、おしゃべりをすることは他人の迷惑になるので、いくら注意してもおしゃべりが止まらない場合には、子供や親と相談した上で休塾または退塾して頂くことになっている。このような方法も一つかと思う。

### 3. おわりに

学生の仕事は勉強することである。学生の仕事の成果は、学校の成績で評価される。よく学生時代に勉強した人は、よい評価がされ、余り勉強しなかった人は、評価が低い。会社としても、この人がどのような仕事を会社に入ったあとしてくれるのかを推測するのに、その直前まで通っていた学校の成績を参考にすることは当然だ。学生時代に遅刻や欠席が多い人を見れば、会社に入っても遅刻や欠席が多いだろうと推測するし、必修科目の評価が低ければ、与えられた仕事を完全にこなすのは難しい人であろうと考える。それ故、学校の成績表でよい評価を残すことは学生にとって最も大切である。学校の定期試験は、出題範囲も明確に決まっているのであるから、大学生であろうと手を抜かず、4年生の最後まで勉強して欲しい。

\* 今回で「来年こそ我が社に新卒を一人以上迎えよう」のシリーズを終了させていただきます。何百名もの方々から貴重な御意見を頂き有り難うございました。最後にもう一度お願いします。不況下で大変かも知れませんが、是非来年こそ社長の収入を減らしてでも新卒を一名以上我が社に迎え入れて下さい。学生のみならず今までの社員も喜び、社内や地域が必ず活性化します。